

1 全教職員が共通の目標に向かって協働する学校づくり

Table with 10 columns: 評価項目 (具体的な取り組み), 番号, 主担当, 評価の指標, 評価方法, 結果, 実施時期, 成果 (O) 課題及び改善策 (A), 12月評価, 7月評価. Rows include organizational school management, staff development, and improvement of school management.

2 確かな学力を身に付け、意欲的に学び合う児童の育成

Table with 10 columns: 評価項目 (具体的な取り組み), 番号, 主担当, 評価の指標, 評価方法, 結果, 実施時期, 成果 (O) 課題及び改善策 (A), 12月評価, 7月評価. Rows focus on academic achievement, learning motivation, and staff collaboration.

3 自己有用感に裏付けされた自尊感情の高い児童の育成

評価項目(具体的な取り組み)	番号	主担当	評価の指標	評価方法	結果	実施時期	結果(◇) 成果(○) 課題及び改善策(▲)	12月評価	7月評価
生徒指導の充実	①生徒指導の3つの視点を活かした居場所づくりと絆づくり	21	【成果指標】 学校は楽しいと感じている	児童・保護者アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	保護者アンケート90%→92% 児童アンケート93%→85%	7月・12月・2月	▲保護者は向上したが、児童は9%下がった。さらに自己有用感を高めていく。	B	A
	②児童会及び縦割り班活動や地域とのふれあい活動の実践	22	【成果指標】 自ら進んで縦割り班活動や地域とのふれあい活動に参加している	児童アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	児童アンケート90→91%	7月・12月・2月	○コスモステERING、ふれあい集会、ふれあい遊び(9月・11月)で、縦割り班活動ができた。	A	A
	③「おもいやりの挨拶」の定着	23	【成果指標】 毎月の挨拶運動に参加している	挨拶運動参加率 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	挨拶運動参加率92→100%	毎月	○月1回になったことで、声かけしやすく、児童も頑張れるようになった。 ▲挨拶運動の場以外の挨拶が弱い。1月の生活目標を各学級で決め、毎日の会で振り返る。	A	A
	④いじめ・不登校の未然防止とチームによる早期発見・対応	24	【努力指標】 いじめアンケート・面談の実施後、気になる児童を共有しチームで対応している	教員アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	教員アンケート100%	7月・12月・2月	○個別に面談し対応した。後、児童理解の会で共通理解ができている。	A	A
心の教育の充実	①自己有用感・自己肯定感を持たせる場面の設定	25	【成果指標】 自分は学校や友だち・家族のために役に立つことをしている	児童・保護者アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	保護者アンケート: 87→94% 児童アンケート92→87%	7月・12月・2月	○全員のありがたさの木を作ることができた。 ▲コメントの充実が必要である。学年に応じてじっくりかける時間を保障する。	B	B
	②地域学習や施設訪問などを通じた郷土愛・思いやり行動の育成	26	【努力指標】 地域や地域の人たちを大切にしたいという気持ちが高まってきている	児童アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	児童アンケート91%→90%	7月・12月・2月	2年: 町探検 3年: 地域調べ 4年: こども園 5年: 田んぼ、高齢者交流 6年: 環境 どの学年も地域に足を運び、交流できた。	A	A
	③無言清掃で考える力と見つける力の育成	27	【努力指標】 児童が自ら工夫して無言清掃に取り組んでいる	教師アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	教師アンケート91%→100%	7月・12月	○無言は改善されている。 ▲めんどくさく感じないという子がいる。全校で徹底できず次にするために、振り返りをしっかりする。	A	A

4 家庭・地域から信頼される学校づくり

評価項目(具体的な取り組み)	番号	主担当	評価の指標	評価方法	結果	実施時期	成果(○) 課題及び改善策(▲)	12月評価	7月評価
健康の保持増進	①「早寝・早起き・朝ご飯」等の基本的な生活習慣の推進と定着	28	【努力目標】 毎日、早寝早起き朝ごはんに努めている	児童・保護者アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	保護者アンケート81%→86% 児童アンケート88%→89%	7月・12月・2月	○全学年食育指導ができた。 個別に呼んで指導できた。 ▲家庭での意識が低い。全体指導より個別指導が有効である。継続していく。	B	B
	②体カアップ1校1プランやスポチャレいしかわへの積極的な参画と実践	29	【成果指標】 計画的に体育の授業にスポチャレいしかわを取り入れている	スポチャレ実践の学年 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	全学年実施	7月・12月・2月	○それぞれの学年で取り組めた。 ▲スポチャレの継続的な実践は難しい。全校で強化月間を作るこい。	A	A
安全管理	①防災教育・避難訓練等の計画的実施	30	【努力目標】 行事や学習で防災教育を実施している	教員アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	教員アンケート100%→92%	7月・12月・2月	○様々な場合を想定した訓練ができた。 ▲役割がはっきりしていない。人手が足りない時の対応を考えていなくてはいけない。役割のマニュアルを基に、臨機応変な対応ができるようにする。	A	A
地域との連携	①地域資源の活用	31	【努力指標】 教科や行事等において、ゲストティーチャーなど地域の人材を活用している	学期ごとにゲストティーチャーを活用した実践の回数 A: 5回以上 B: 4~3回 C: 2~1回 D: 0回	全学年実施	7月・12月・2月	○道徳公開でGTを招くことができた。 ▲昨年度の道徳で活用した地域資源の活用が必要。次年度へ向け、地域人材を活用できる行事、教科単元等の年間一覧表を作成し、見直しを持って地域人材を活用できるようにしておく。	A	A
	②保護者・地域の意見を生かした学校運営	32	【成果指標】 学校評価からの改善点を保護者・地域に知らせている	お便り・HP・学校説明会の実施 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	学校だより・HP・学校説明会で実施	11月・2月	○十分できた。 ▲改善点を明確にして取り組むことができたが、保護者からの協力を得て改善することはできていない。保護者に学校運営に関心が持てるようさらに発信が必要。	A	
学校環境の整備	①適切な修理・営繕と点検業者との連絡	33	【成果指標】 安全点検の結果から修理・営繕の連絡を迅速に行っている	安全点検結果 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	毎月の点検実施	毎月	○修理箇所を市教委へ報告し、対応している。	A	A
計画的な予算執行	①短期・中期での予算執行の可視化	34	【成果指標】 予算の執行員合を可視化し、職員に示している	職員会議での提案 A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	コピー回数を2度提案	随時	○現在の執行状況を可視化することができた。	A	B
	②適切な予算執行のための職員への意識化	35	【努力指標】 予算の適切な執行を意識し、紙の無駄使いやカラーコピーの精選に努めている	教員アンケート A: 90%以上 B: 80%以上90%未満 C: 60%以上80%未満 D: 60%未満	教員アンケート75%→92%	7月・12月・2月	○印刷の使用量を可視化し、職員へ節約を呼びかけている。予算への関心を持つことができた。 ▲不必要な印刷物を減らす必要がある。	A	C